

特別支援学校小学部（重複障がい学級） 特別活動 「交流及び共同学習」

1 本活動で人権教育を進めるにあたって

本活動は、小学校と「交流及び共同学習」を実施することを通して、児童の経験を広め、社会性や豊かな人間関係を育むことをねらいとしている。また、楽しい活動を共有する中で、特別支援学校の児童と小学校の児童が、お互いに対等な立場として、相互理解を深めることをねらいとしている。

特別支援学校の児童は、「交流及び共同学習」で充実した時間を過ごすことを通して、活動する楽しさを味わったり、同世代の児童たちとかかわる喜びを感じたりすることができる。また、小学校の児童の交流に対する思いが伝わることで、特別支援学校の児童の自己肯定感が育まれ、自立へとつながっていくものである。

「交流及び共同学習」を通して、特別支援学校と小学校の児童の正しい相互理解が深まることは、将来、地域生活を営む上で、同じ社会に生きる人間として、共に支えあって生きる基盤となる。このような取組を通して、いろいろな人が「他人と違う」ということで差別されず安心して暮らすことができる、人権の尊重される社会を築く一員として必要な資質や能力を育てていきたい。

2 活動の目標

小学校の児童とふれ合い、人とかかわる喜びを感じる中で、好ましい人間関係を築き、生活経験を広げる。

3 人権教育を通じて育てたい資質・能力

- 周囲の人と仲良くすることができる。（価値的・態度的側面）
- 自分の力を発揮して楽しく活動することができる。（技能的側面）

4 指導のポイント

（1）人権感覚を育てる上で大切にしたいポイント

- 教師の言動が、児童の人権感覚を育む最大の環境であることを自覚し、「共に生きる仲間」としての言葉かけや振る舞いに留意する。
- お互いの学校の担当者同士で、活動の前後に話し合いの場を設け、活動に対する願い、児童の様子、良かった点・課題点等を出し合い、よりよい活動を目指す。
- 生活単元学習や自立活動で、活動内容に対してより主体的に活動できるような指導や支援を行ったり、日常生活の指導で期待を持てるような言葉かけや予告を行ったりする。
- 家庭との連絡を密にし、活動における児童の様子や小学校の児童の行動等を伝えたり、保護者の活動に対する思いも十分に聞き取ったりする。

(2) 人権が尊重される授業づくりの視点

① 自己存在感

一緒に活動できて楽しかったこと、会えてうれしかったことなど、パートナーの児童の言葉や気持ちを伝えることで、満足感が得られるようにする。

② 共感的人間関係

交流時に良い様子が見られたときは、「お友だちと遊べて楽しいんだね」など、肯定的な言葉かけを行うことで、人とかかわることのよさを伝える。また、パートナーの児童に、読み取りにくい表情や仕草などについて教師が気持ちを代弁するなどして、本校児童の得意なこと・苦手なことなどを伝える。

③ 自己選択・決定

表情や仕草から、快・不快、したい・したくないといった気持ちをしっかり汲み取り、活動の主体となる実感が持てるようにする。

5 学習の流れ

(1) 指導計画

学習活動	人権尊重の視点を踏まえた指導上の留意点等
事前学習 ○交流及び共同学習の日程及び内容を知る。	○活動に対する期待感が高まるよう、前日、「明日は交流学習でA小学校に行くよ」という予告を行う。 ○より活動のイメージが持てるよう、児童の実態に応じて、パートナーの児童や交流時の写真などを見せる。 ○当日、「秋の交流集会」に参加することや、パートナーの児童とゲームをすることを伝える。 ○活動内容のイメージがつきやすいように、活動で使用する道具などの具体物を示す。
交流及び共同学習の実施 ○交流集会に参加し、交流を深める。 ○自分にできる動きでゲームに参加する。	○当日朝に、感染症、天候による変更等についての情報交換や、集会の内容等の確認を行う。 ○けがや事故等の安全に十分留意し、児童同士のかかわりを重視した楽しい活動を行う。
事後学習 ○交流及び共同学習について、振り返る。	○それぞれの児童がよい表情を見せていた場面を中心に、児童の代わりに教師がその時の状況を伝える。 ○一緒に活動できた喜びや人とかかわる楽しさを味わうことができるよう、「〇〇をしたんだね。」「楽しかったんだね。」など、肯定的な言葉かけをする。

(2) 人権尊重の意識と実践力を養う学習活動例

目標

◇小学校の秋の交流集会に楽しく参加し、交流を深める。

人権教育で育てたい資質・能力

◆自分にできる動きで活動に参加し、友だちと仲良く活動することができる。

主な学習活動	○指導上の工夫・留意点 評価◇◆	備考
1 本時の学習を知る。 (1) あいさつをする。 (2) 会場である小学校の運動場へ移動する。	○活動に対する期待が持てるよう、「交流があるよ」「お祭りだよ」などの言葉かけをしておく。 ○ぬくもりを感じ合えるよう、握手等のスキンシップを行うようにする。 ○仲良くなれるよう、パートナーの児童が車椅子を押すようにする。 ○関心をもったり、話題にしたりできるように、今日の体調や、最近の出来事等について、パートナーの児童に伝える。	
2 秋の交流集会に参加する。 (1) 話し合いをし、行き先を決める。 (2) 自分にできる動きで、ゲームに参加する。	○パートナーの児童に、声のかけ方や反応の仕方などを伝え、児童同士で会話しながら活動できるようにする。 ○質問に対する反応を表情等から読み取り、本人の気持ちに沿って代弁する。 ○パートナーの児童に、本人の好きなことや物について、共に活動する中で理解を促し、本人の希望を大事にした活動ができるよう支援する。 ○パートナーの児童に、特別支援学校の児童がゲームに参加できる方法を考えるよう、言葉かけをしたり、参加の仕方について提案したりする。 ○ゲームの状況を伝えたり、「楽しかったね」など、肯定的な言葉かけをすることで、活動を楽しみ、自己肯定感を高めるようにする。 ◇◆自分にできる動きでゲームに参加している。	
3 お別れのあいさつをして、学校へ帰る。	○「楽しかったよ」「ありがとう」など、児童の気持ちを代弁する形でパートナーの児童に伝える。 ○玄関でパートナーの児童を見送り、次の活動を楽しみにする気持ちを育てる。	

6 資料

交流計画の例

A小学校との「交流集会」の流れ

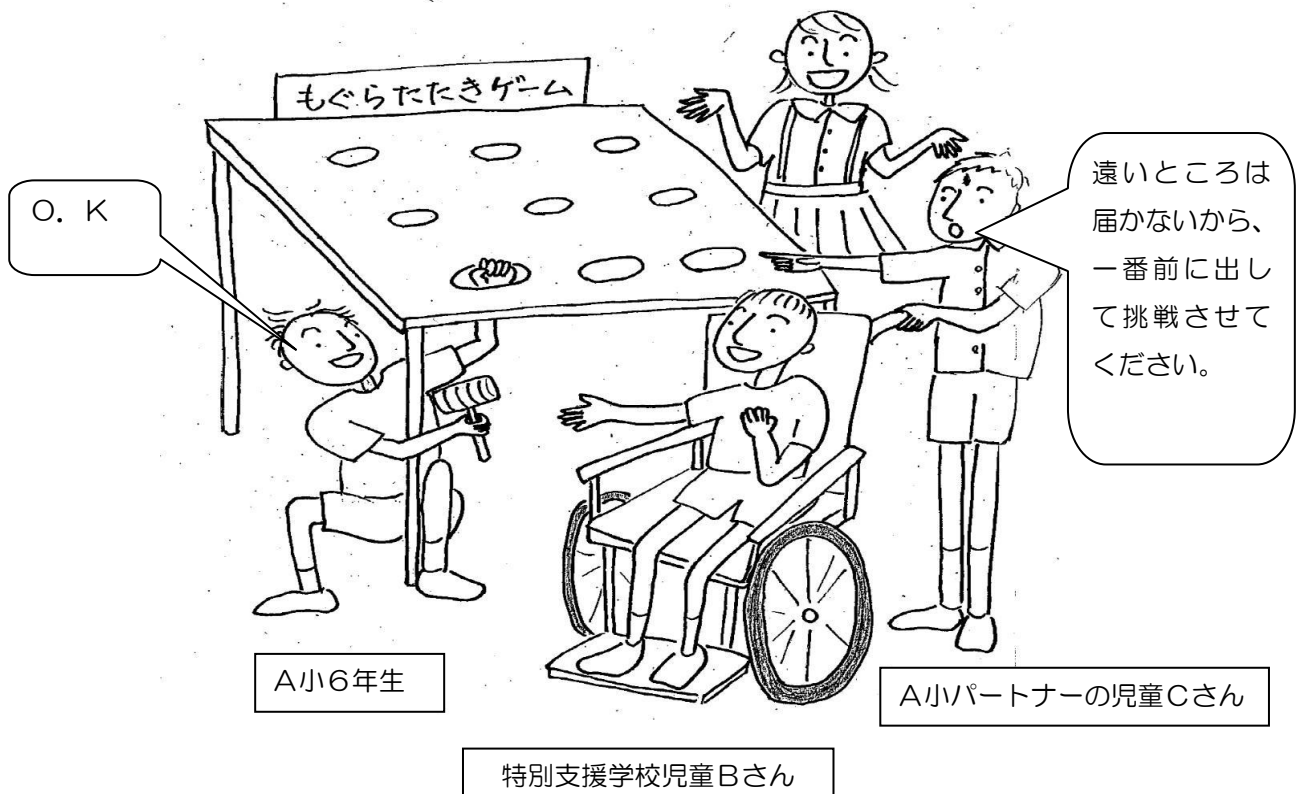
- 1 運動場入場
小学部の児童とA小学校の〇年生と一緒に、入場する。
- 2 開会行事（進行：A小学校交流計画委員会）
 - 開会の言葉（A小学校交流計画委員会）
 - 児童代表の言葉（A小学校）
 - 校長先生のお話（A小学校）
- 3 ゲーム
 - 特別支援学校の児童とパートナーとのゲームタイム
 - 他の学年も交えてのゲームタイム
- 4 閉会行事
 - 児童代表の言葉（特別支援学校児童）
 - 校長先生のお話（特別支援学校）
 - 閉会の言葉（A小学校交流計画委員会）
- 5 退場

交流を実施する際の事前打ち合わせの例

打合せの内容（交流学習の計画案を持ち寄る）

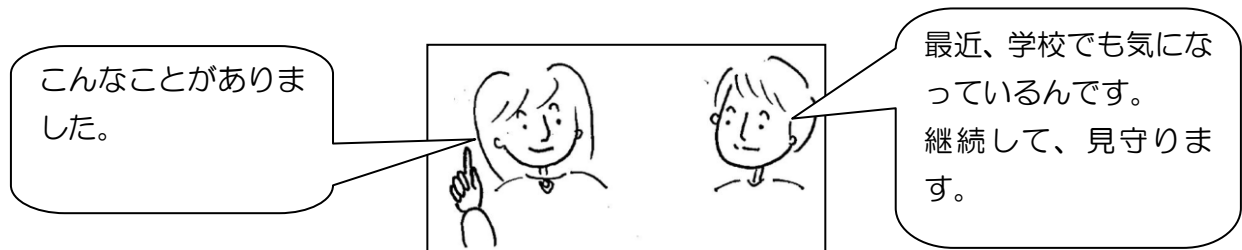
- 1 実施日程について
- 2 交流学習の目的と内容の確認
 - 緊急時の対応について
 - ・けがや病気等の緊急事態に対応できるよう、対応マニュアルを作成する。
 - 疲れ等の体調を考慮し、休憩場所を確保してもらう。
- 3 交流実施の確認について
 - 天候や感染症等による交流実施の最終判断は、当日行う。
 - どちらかの学校に感染症が一人でも出た場合、交流を中止する。
- 4 パートナーについて
 - 特別支援学校の児童について
 - ・児童の様子や、交流する上での留意点等について
 - 小学校の児童について
 - ・配慮を要する児童について
 - ・転出入の連絡について
- 6 両校における交流の目標について
 - 交流内容と交流に対する思いについて共通理解を図る。
- 7 事前学習について
 - 小学校における事前学習の内容、方法などを確認する。（必要に応じて、特別支援学校の職員が説明等に行く）
- 8 その他
 - 学級だより等への、個人写真の掲載についての確認を行う。

もぐらたたきゲームに参加したときの交流例



学習終了後の気付きについての情報交換

- 気付いたことをお互いに情報交換し、日々の学校生活や次の交流に生かせるようにする。
- 活動でのかかわりの良かった点を伝え合うとともに、問題であると思われた言動についても気付きがあれば伝える。
その際、事実確認を大切し、発言や行動の背景についても、よりよい関係をつくるためのよい機会としてとらえ、ていねいに聞き取りを確認する。



交流後の打ち合わせの例

○打合せの内容

1 交流学習の様子

○スライドで紹介する。

2 取組と課題について

○両校の児童の様子等の情報交換

- ・それぞれの学校の児童の様子を伝え合う。
- ・かかわりの良かった点や問題であると思われた言動について、ていねいに聞き取りをして得られた事実、発言や行動の背景についても伝え合い、今後の対応等について共通理解をする。

○職員アンケートをもとに、反省する。

- ・日程・内容等、運営面に関する反省を出し合う。
- ・アンケートを基に意見を出し合い、課題については、次回の交流で改善する。

3 次回の交流学習の予定について

<本校の先生の声>

○車いすを押してもらった時も、緊張して乗っていたのが、今は笑顔もあり、安心して活動しています。前日の事前学習での予告に対する反応でも、最初は反応を見せなかったのが、だんだん笑顔で反応するようになり、交流を楽しみにしている事がわかります。小学校の児童とのかかわりを通して、たくさんの笑顔が見られるようになりました。

<A小学校の先生の声>

○「クラス内で友達とのかかわりが上手でなかった子どもが、特別支援学校の子ともとかかわる中で、『何が好きなんだろう？どうしたら喜ぶかな？』など考えるようになりました。相手のことを考えながらかかわることができるようになったことで、クラスの子ともとのかかわりもよくなってきました。」